

Letter from Samoa

サモア通信 11th
Sep.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア生活も残り半年。日々の生活はのんびりした南国の雰囲気ですが、過ぎ去った時間はとてつもなく早く感じている今日この頃です。さて、今回のサモア通信では「**サモアの理科教育**」に焦点を当てて綴りたいと思います。

○小学校の理科教育

まず、サモアの小学校には全ての科目において教科書は存在しません。カリキュラムはニュージーランドのものを使用し、先生達はそれに沿って授業を進めることになっています。しかし、理科については先生達も知識が乏しいため、それぞれの先生が教えられることをそれなりに教えているという状況です。先生によっては、ほとんど理科の授業が行われていないこともあります。

○カレッジ(中学レベル)の理科教育

カレッジでは各教科、学校に数冊ほどの教科書は存在しますので、先生達は教科書に沿って授業を進めています。生徒用の教科書は存在しないので、先生の板書を必死に写したノートが生徒にとっての教科書となります。中学レベルの理科については、必修の学校と選択科目の学校があります。自分の配属校では中学レベルの理科は必修となっています。しかし、多くの学校では教科書に沿って行われているものの、担当の先生の専門外のトピックは飛ばされていることがほとんどです。配属校では生物専門の先生しかいないため、化学の半分程度と物理分野全ては行われていないのが現状です。



○カレッジ(高校レベル)の理科教育

高校レベルの理科は生物、化学、物理が存在し、選択科目となっています。基本的に高校レベルで理科を選択する生徒は学年の上位1割程度のトップ層のみです。昨年度はサモア全土で約2000人の受験者のうち、物理選択者は約200人でした。また、高校レベルの教科書については、基本的に全科目教員用のものは存在しているのですが、化学と物理のみ存在していません。そして、これらを教えられる教員もサモア全土でも少数です。多くの学校では「教員がない」という理由で物理、化学が開講されていません。大学や教育省の教員養成過程についても理科においてはしっかり確立されていないのが現状です。

○やりたいことができる幸せ

このような中で自分は協力隊として何ができるのか、考えて行動してみるものの、それでも答えが見えない毎日を過ごしています。しかし、目の前に「理科を勉強したい」という生徒がいる以上は、彼らのために全力を尽くすことが自分のできることなのかと認識しています。こうして考えると、当たり前だと思っていた日本の教育システムのありがたみを感じる事が多々あります。子ども達が学びたいことを自分で選択して学ぶことができ、全ての教科において、教科書、教員が存在しており、そして何より、自分の将来を自分で決定することができます。そんな状況の中、南高校のみなさんはどんな意思決定をし、どんな将来を作り上げていきますか。半年後に聞くのを楽しみにしています。それではまた会う日まで。Fa soifua.